

# 今に残る江若鉄道の足跡

江若鉄道は、国鉄（現JR）湖西線の開通までの間、湖西地域を走る鉄道として住民に親しまれ、大正8年（1919）に株式会社として発足したときの計画では、

その名前が示すとおり、滋賀県大津市と福井県遠敷郡三宅村（現：若狭町三宅）を結ぶことになっていました。設立にあたっての株式は8万株で、これを関係市郡に割り当てて株主が募られたため、沿線住民は、資産を売ったり生活を切り詰めたりして株式に応募したといえます。このことは、後に江若鉄道が「住民鉄道」と呼ばれ、多くの地域住民に愛され続けた理由の一つとなりました。

大正10年3月15日に、最初の営業区間として、大津市の三井寺―叡山間が開通した後は、資金の状況や工事の進捗に併せて、路線は少しずつ北へ伸びていきました。そして昭和2年（1927）12月25日に北小松―大溝（後に高島町と改称）間、昭和4年6月1日には大溝―安曇（後に安曇川と改称）が開通、昭和6年1月1日に北端の駅となる近江今津駅までの路線が開通しました。当初この区間は

昭和5年8月の開通が予定されていましたが、安曇川を渡る橋の建設に手間取ったため、開通が遅れたといわれています。

その後、江若鉄道は通学・通勤・買い物など地域住民に幅広く利用されたのはもちろん、物資の輸送列車として、また戦後のレジャーブームの頃には、湖西各地の水泳場やスキー場へ向かう人々を運ぶレジャー列車としても人気を集めました。

その江若鉄道も、昭和30年代初めに国有化の話が持ち上がり、40年代に入ると江若鉄道に代わる国鉄湖西線の建設計画が本格化していきました。

江若鉄道の線路敷は、約6割を鉄道建設公団が買収し、そこに国鉄の線路が建設されることになりました。湖西線建設工事は昭和42年に着工し、工事が本格化した昭和44年10月31日、江若鉄道はその役割を終えて廃線となりました。

現在、江若鉄道の大半の線路跡にはJRの高架線路が建設されていて、残りの部分もほとんどが道路になっていることから、列車が走っていたころの面影を残してい

るところは少なくなりました。

ただ市内には、江若鉄道区間で唯一現存する近江今津駅舎があるほか、線路跡周辺を注意深く歩いてみると、川を渡っていた線路の橋台跡が残っているなど、江若鉄道の足跡をわずかに見つけることができます。

マキノ資料館で開催中の企画展「思い出の江若鉄道」（7月29日まで）では、こうした市内に残る江若鉄道の足跡を、当時の写真などとともで紹介しています。ぜひ、



江若鉄道近江今津駅舎



天川の橋台跡

懐かしい「住民鉄道」の思い出を探しにきてください。

## ご協力をお願いします

最近、県内では地域に残る文化財（美術工芸品）の盗難事件が連続して発生しています。文化財所有者だけでなく、地域に住んでいる私たちみんなが防犯意識を持ち、地域の宝である貴重な文化財を守っていきましょう。

## 閩文化財課

☎(32) 4467

## 編集者のつぶやき

表紙は、花しょうぶまつりのようす。写真愛好家の方や子ども連れの方たちが、咲き誇る花に魅入っておられました。花しょうぶの時期が終わると7月。本格的な夏が始まります。暑い夏にぴったりなのがステテコ。5月には高島ちぢみのステテコなどのファッションショー「びわ湖たかしまコレクション」が開催され、華やかな舞台に多くの方が魅了されました。外着として着るようなオシャレなものもあり大変魅力的でした。（広報担当S）

広報たかしま

平成24年

7

月号

No.150

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒250-0100 滋賀県高島市新旭町北畑5の番地

☎0740 (25) 8000(代)  
http://www.city.takashima.shiga.jp  
✉t-info@city.takashima.shiga.jp